五十嵐正市氏を偲んで

江戸凧保存会　　中島裕之

令和 5 年 3 月 22 日、「江戸凧保存会」の前会長で、「日本の凧の会」の世話人を歴任された五十嵐正市氏がご逝去されました。　87 歳でした。

同氏は最後の江戸凧師と呼ばれる『橋本禎造』氏を師と仰ぎ、主にその絵柄を踏襲した江戸角凧の製作に精力的に取り組み、生涯をかけてその素晴らしい製作技法の伝承に多大な功績を残されました。その繊細且つ迫力のある作品の数々は伝統工芸品としてマスコミにも度々取り上げられました。それらの作品は全国の江戸凧ファンにも愛され、「日本の凧の会全国大会」の前夜祭等で行われた凧のオークションでは毎回高額で落札されて各地の凧友のもとへわたりました。また第 4 回全国大会で栄誉ある『心護杯』を受賞されています。
五十嵐氏の活躍はは国内だけにとどまらず海外にもおよび、アメリカをはじめヨーロッパ、オーストラリア等で行われた国際凧揚げ大会にも招待され参加しました、その際は大きく色鮮やかな武者絵の江戸角凧を会場に持ち込み、和凧の美しさ素晴らしさを存分に伝えるとともに、各国の凧仲間達との交流を深めてきました。

長年勤務した金融機関を定年退職した後、住み慣れた東京を離れ山梨県の小淵沢に移住しました、そして私達江戸凧保存会のメンバーをその自然豊かな自宅に招いて、竹の削り方、裏打ちの仕方、武者絵の描き方など、毎回異なる課題で凧作りの勉強会を開催してくださり、自分が身につけてきた凧作りの知識や技術を惜しむことなく伝授くださいました。

晩年は地元の子供たちに向けて「凧作り教室」を行ったり、度々江戸凧の展示会を開催して地元の方々に凧の楽しさ、素晴らしさを伝えました。

江戸凧保存会では急逝された五十嵐正市氏を偲び、その江戸凧作りにかけた強い情熱を引継ぎ、『江戸時代より受け継がれた伝統的な東京の凧「江戸角凧」の素晴らしい伝統技術を後世に残したい』と言う本会の理念を実現すべく会員一同心を新たにしております。

末筆になりますが、私は五十嵐氏とは 20 代の初めに出会い 40 数年のお付き合いをさせて頂きました。その間、凧作りの以外にも登山、カヌー、パラグライダー、カスタムナイフ作りに家具造りと数多くのジャンルで人並外れた多彩な才能を発揮されるのを間近に見ていて「凄い人だなぁ」と感じていました。特に、今でこそオリンピックでメダルを取れるようになった日本のカヌー競技ですが、その草創期にカヌーをいち早く手作りし、選手を育て、日本を代表する選手団のコーチや監督に就任し、NHK テレビのカヌー競技中継では解説者としてに出演していました。そして現在でも日本のカヌー会のレジェンドとして語り継がれている存在であることをお伝えし五十嵐正市氏への追悼の言葉と致します。